

# Economic Indicators

発表日:2021年3月17日(水)

## 貿易統計(2021年2月)

～1月から輸出は落ち込むも、均せばアジア向けを中心に底堅い推移が続く～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL:03-5221-4524)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量					
		原数値		輸出金額		前年比		アメリカ		前年比		EU		前年比	
				前年比	前年比			前年比	前年比			前年比	前年比		
20年	3月	75	▲ 2,563	▲ 11.7	▲ 5.0	▲ 11.4	▲ 15.9	▲ 9.1	▲ 10.5	▲ 2.2	▲ 1.9	▲ 2.6	▲ 2.3		
	4月	▲ 9,369	▲ 9,905	▲ 21.9	▲ 7.0	▲ 21.3	▲ 36.9	▲ 27.6	▲ 11.8	1.6	4.1	▲ 0.2	6.0		
	5月	▲ 8,568	▲ 8,277	▲ 28.3	▲ 25.9	▲ 27.3	▲ 49.4	▲ 34.8	▲ 11.4	▲ 14.4	▲ 22.8	▲ 25.9	▲ 8.5		
	6月	▲ 2,909	▲ 5,553	▲ 26.2	▲ 14.1	▲ 27.0	▲ 47.0	▲ 33.2	▲ 17.7	▲ 0.5	▲ 12.6	▲ 6.2	0.4		
	7月	▲ 148	33	▲ 19.2	▲ 22.0	▲ 22.0	▲ 21.5	▲ 36.9	▲ 11.3	▲ 13.7	▲ 28.0	▲ 12.6	▲ 10.6		
	8月	2,280	2,572	▲ 14.8	▲ 20.4	▲ 14.9	▲ 20.1	▲ 27.5	▲ 7.3	▲ 11.2	▲ 22.3	▲ 15.1	▲ 7.2		
	9月	6,674	5,718	▲ 4.9	▲ 17.1	▲ 7.7	▲ 6.1	▲ 23.3	▲ 3.7	▲ 8.1	▲ 16.5	▲ 3.3	▲ 7.4		
	10月	8,582	5,929	▲ 0.2	▲ 13.1	▲ 1.7	0.8	▲ 10.9	2.8	▲ 5.4	▲ 21.4	▲ 8.3	▲ 2.4		
	11月	3,558	6,148	▲ 4.2	▲ 11.0	▲ 4.0	▲ 2.6	▲ 9.8	▲ 4.5	▲ 2.0	▲ 19.3	▲ 12.9	4.6		
	12月	7,447	7,190	2.0	▲ 11.5	▲ 0.1	▲ 3.4	▲ 18.4	5.2	▲ 1.9	▲ 22.7	▲ 0.9	2.0		
21年	1月	▲ 3,254	5,511	6.4	▲ 9.5	5.4	▲ 8.7	▲ 26.1	18.4	▲ 4.3	▲ 10.5	▲ 10.9	▲ 3.0		
	2月	2,174	▲ 387	▲ 4.5	11.8	▲ 4.3	▲ 16.4	▲ 23.9	▲ 0.4	22.0	▲ 8.0	1.7	43.7		

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

### ○輸出は前年比で減少も、1、2月を均せば底堅く推移。輸入は持ち直しが続く

財務省より発表された2月の貿易統計によると、貿易収支は2,174億円の黒字(コンセンサス:5,085億円の黒字、レンジ:1,148億円の黒字~6,718億円の黒字)となり、コンセンサスを下回る結果となった。輸出金額は前年比▲4.5%(コンセンサス:同▲0.2%、レンジ:同▲5.5%~同+3.7%)、輸入金額は同+11.8%(コンセンサス:同+12.0%、レンジ:同+7.9%~同+17.5%)となった。輸出については、米国向けが同▲14.0%と大幅な減少となったほか、中華圏の春節時期のずれ(20年は1月末、21年は2月)によりアジア向けの輸出が1月に前倒しされていた影響から、前年比で減少に転じた。1、2月を均してみると、輸出は底堅い推移が続いている。一方、輸入については、昨年中国でロックダウンが実施されたことにより輸入が大きく落ち込んだ裏が出たことなどから、前年比で大幅な増加となった。

品目別にみると、輸出については、世界的な半導体需要の高まりから半導体等製造装置(同+11.7%)が高い伸びとなったほか、プラスチック(同+11.6%)、非鉄金属(同+5.4%)などが前年を上回った。一方、自動車(同▲12.9%)、鉱物性燃料(同▲40.7%)などが輸出の減少に寄与している。輸入については、原粗油(同▲30.7%)の大幅な減少が続いた一方で、テレワーク需要などから通信機が同+63.9%、PC等の電算機類(含周辺機器)が同+54.1%と高い伸びとなったほか、衣類・同付属品(同+54.1%)などが増加に寄与した。

季節調整値でみると、輸出金額は前月比▲4.7%、輸入金額は同+4.7%となったことで、貿易収支は▲387億円の赤字と20年6月以来の貿易赤字となった。

### ○実質輸出は前月比▲2.4%と1月から減少も、アジア向けを中心に高水準を維持

為替などの価格変動の影響を除いた2月の実質輸出(実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算)

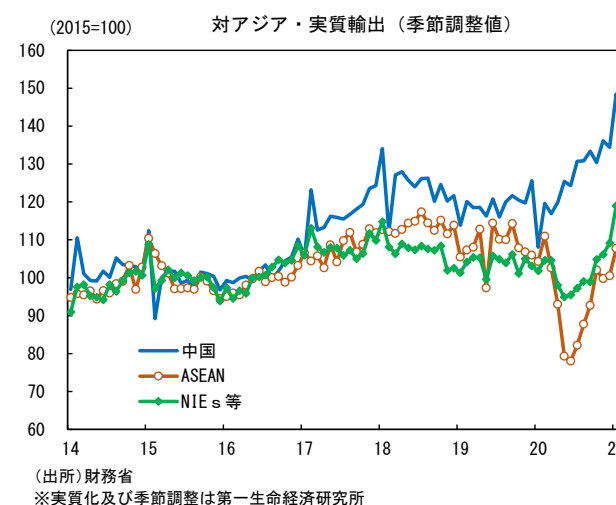
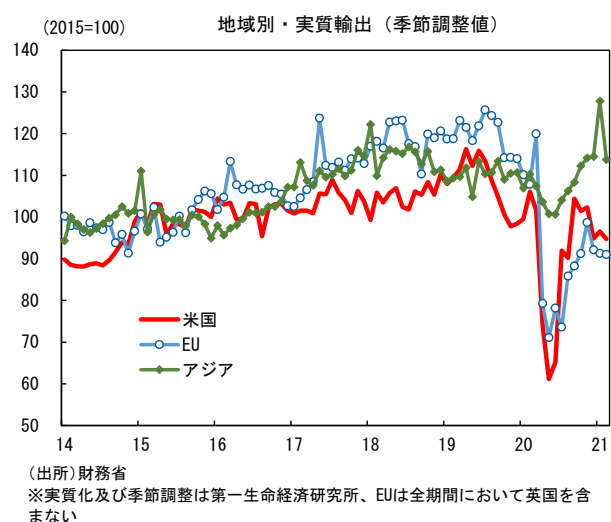
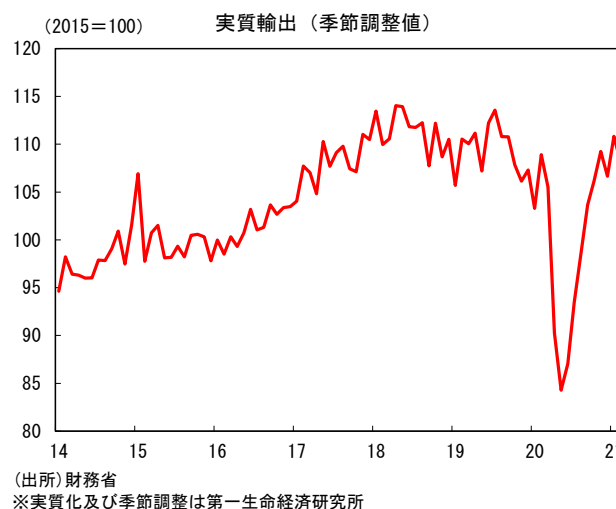
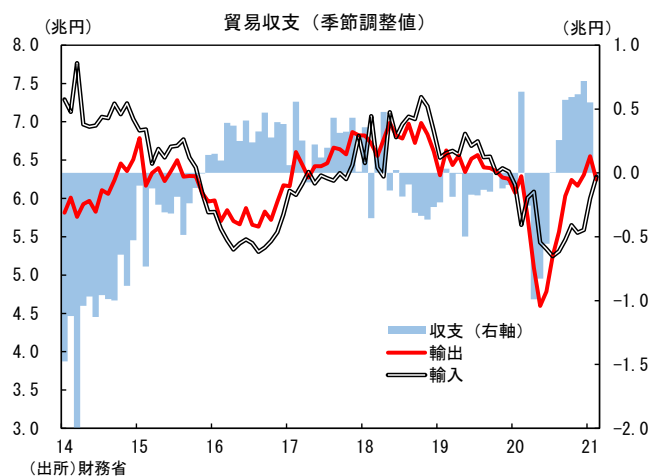
は、前月比▲2.4%（1月：同+3.9%）の減少となった。国、地域別にみると、米国向けが同▲1.9%、EU向けが▲0.3%、アジア向けが同▲11.0%と減少した。もっとも、アジア向けについては大幅な減少となったものの、中華圏の春節の影響により1月が高い伸びとなったことの反動減であり（1月：同+11.6%）、均してみれば増加基調で推移している。2月の実質輸出は前月比で減少に転じたものの、アジア向けをけん引役に、高い水準を維持している。

品目別にみると、金属・同製品が同▲3.3%、一般機械が同▲6.9%など、幅広い品目が1月から減少に転じた。一方、世界的な半導体需要の高まりなどから、半導体等の電気機器は同+1.3%と増加が続いた。

## ○世界経済の回復から増加基調は続く見通しも、増加のペースは緩やかなものに

先行きについては、各国で新型コロナワクチンの接種が進んでいるほか、感染拡大が続く中でも製造業は好調を維持しており、米国、中国向けを中心に今後も輸出の増加基調は続くと思われる。もっとも、世界経済の回復が緩やかなものになるとみられることや輸出の回復をけん引してきた自動車の輸出の増加ペースが一服していることなどから、輸出の増加ペースは20年10-12月期と比較し緩やかなものになるだろう。

今後もリスクは引き続き新型コロナウイルスの感染動向である。変異種の感染拡大やワクチンの供給不足などが懸念されており、それに伴い世界経済の回復が遅れば、輸出の下押し圧力となるだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。